

巻/頭/言

環境の変化に対応し、事業に貢献する情報システムへの期待

Expectations of Information Systems to Contribute to Responsible Business to Changes in Environment

清尾克彦
Katsuhiko Seo



企業の情報システムを取り巻く環境は大きく変わりつつある。まずグローバル化の流れである。円高の影響で製造業のものづくりの海外シフトが進み、また、少子高齢化やデフレによる国内市場の縮小で海外(特に発展途上国)に販路を求め、生産と販売の両面でのグローバル化が急速に進んでいる。海外への事業の展開の度合いに応じて、国内と海外の情報システムをいかに連携・統合化して、事業に貢献していくかが求められている。

情報システムを構築するための情報技術の面では大きなパラダイムシフトが起きつつある。パスワード(いわゆるはやり言葉)であるクラウドコンピューティングは、セキュリティの面での課題を指摘されているが、その柔軟性や俊敏性、拡張性によって、いろいろな分野で活用が進んでいる。最近では、ビッグデータが世間を賑わしているが、単なる大きなデータを指しているというより、新しいデータ分析・活用の道を切り開く活動と見ることができる。

増大しつつある外部からのサイバー攻撃や内部からの情報漏洩(ろうえい)などに対して、情報セキュリティの強化がますます重要になってきている。また、2011年の東日本大震災の教訓を踏まえて、事業継続計画(Business Continuity Plan: BCP)・災害復旧(Disaster Recovery: DR)の取組みや地球にやさしいグリーンITの推進も重要な課題である。

企業の情報システムの役割として、従来も継続して進化を遂げている業務プロセス改善による業務の効率化の実現に加えて、情報システムを駆使して経営の意思決定や業務最適化への支援による事業の競争力強化に向けた経営への貢献が期待されている。業務プロセスの改善では、単に業務のIT化だけではなく、業務自体の見直しも必要である。事業競争力の強化では、現状の見える化・報告・確認から、分析・予測による適切な処理、さらに最適化を目指した業務革新の取組みが求められる。

大きな環境の変化に対応して、事業競争力の強化に貢献

する情報システムを実現していくためには、次のような取組みが必要と思われる。

- (1) ユーザーである業務部門と情報システム部門が協調して、業務革新を狙いとした情報システムの構築が必要である。国内から海外へ、バックオフィスから事業の最前線へと情報システムの対象が拡大するのに伴い、経営課題を受け止め、情報技術による真の解決策を提供していくことが求められる。このような取組みでは、情報システム部門は、従来のような情報システムを構築し運用するITサービスのプロバイダから、事業部門が必要とするサービスを仲介するコーディネータのような役割が期待されている。
- (2) 情報が企業活動の重要な基盤になってきており、情報セキュリティやBCP/DRの充実がますます重要になってきている。環境経営の視点からのグリーンITの取組みとあわせて、戦略的な共通基盤の構築が企業経営にかかせない。安心で頼もしいという企業イメージにもつながり、その充実が期待される。
- (3) 期待される情報システムを実現するためには情報システム部門の人材育成が大変重要である。新しい情報技術が次々に出現するなかで、それぞれのキーワードの持つ潜在力を見極めて、効果的に使いこなすことができる技術力が求められる。また、これらの情報技術を駆使して、現場の業務を理解し、関連する部門をコーディネートして、業務革新を支援する情報システムを実現していくリーダーシップも必要である。真の技術力は、経験とそれにふさわしい技術の積み重ねの上で発揮できる。それぞれのキャリアパスに対応した体系的な人材育成が必要である。

情報システムの役割は、事業の発展に不可欠になってきており、経営部門や業務部門との連携を強め、ビジネスへの貢献に向けて歩いていくことを期待したい。